



令和3年7月21日

報道関係者 各位

肥前島原松平文庫企画展 「しまばら 海の物語」の開催について

標記の件について、下記（別紙）のとおり開催しますのでお知らせします。

記

1. 日 程 7月20日（火）から8月29日（日）まで（予定）
2. 時 間 9時～18時 ※金曜日は20時まで
3. 休館日 毎週月曜日
4. 会 場 松平文庫展示室（島原図書館1階）
5. 概 要 島原の歴史は有明海と密接に関係して展開されてきました。今回の展示は島原の歴史を「海」というキーワードから考えることをテーマとし、観覧者が「海」にまつわる文化財等に関心をもつ機会として開催します。



島原守護神 しまばらん

【担当から一言】

展示室前には消毒液を設置して新型コロナウイルス感染拡大防止に努めます。スペースにゆとりをもってご覧ください。

担当：島原市教育委員会 社会教育課 文化財保護推進室

担当 吉岡 慈文

電話：0957-68-5473

E-mail：shakyo@city.shimabara.lg.jp

松平文庫企画展「しまばら 海物語」企画案

1 趣旨

島原の歴史は有明海と密接に関係して展開されてきた。今回の展示は島原の歴史を「海」というキーワードから考えることをテーマとし、観覧者が「海」にまつわる文化財等に関心をもつ機会として開催する。

2 会期

令和3年7月20日（火）～令和3年8月29日（日）予定

3 会場

島原図書館1階 肥前島原松平文庫展示室

4 展示ストーリー

島原は古くより有明海の要衝の地であった。縄文時代においては大野原遺跡からは対岸との交流を示す遺物が出土している。弥生時代には有明海に制海権を持つ有力者が島原を統治していたことが景華園遺跡に残る支石墓掌石や出土遺物から想定される。中世になると、港湾防備のために浜の城が築城され港町・島原が形成されていく。肥前島原松平文庫では江戸時代、「鎖国」体制下で異国船への対応に迫られた島原藩の動向を伝える史料を所蔵している。一方で、海外からの情報を積極的に得ようとした人々の姿を示す史料も確認できる。中でも幕末に海で遭難し、メキシコへ渡った太吉から蘭学者・賀来佐之らが聞き取り著した『墨是可新話』は、蘭学者たちが欧米に寄せる好奇心を伝える史料である。

近代になり、船津新地や湊新地を中心として港湾が整備され、島原における近代化が進んでいくこととなる。

5 主な展示品（予定）

- 大野原遺跡出土・三万田式土器
- 景華園遺跡出土・鉄剣型銅剣2点
- 『船中掟』
- 『文化五戊辰年八月 諳厄利亜船渡来一件』
- 『口之津港要図』
- 『墨是可新話』

「海」は人々を隔てるものではなく人々を繋ぐもの

島原の歴史は「海」とともに・・・



『火車船図』



『嶋原大変洪波打寄之図』

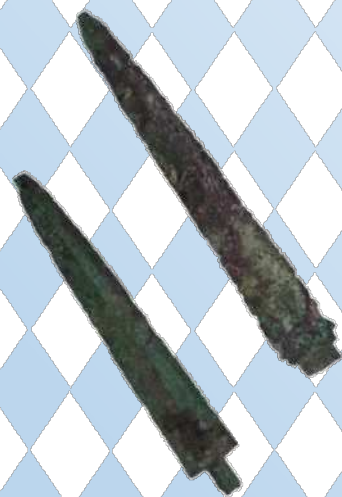


『墨是可新話』

海 の 物 語

しまばら

肥前島原松平文庫企画展



景華園遺跡出土鉄剣型銅剣

会期：令和3年7月20日(火)～令和3年8月29日(日)

会場：島原図書館1階 肥前島原松平文庫展示室

問い合わせ先：肥前島原松平文庫 ☎0957(64)4117

松平文庫